

# ああ、 結婚！

—婚活日記—

第21回

黒田長宏

<12月16日>

47号が発行されたとのメールが来た。冬らしい寒さになってきた。看護師のNさんが明後日で私の勤務させていただいている場所から巣立つらしい。私自身、Nさんを妖精と思っていたのだが、Nさんの最終日を、若い事務員さんに聞いてしまったら、明後日らしく、私も出勤日だった。なんだか、来週にでも聞けば良かったかなと思った。けどけどこの期に及んで告白をする気はない。できないのかも知れない。Nさんには、婚難救助隊の私の名刺を渡してはあるが、なんの反応もないのだから、攻めないと脈もないだろう。しかし攻める気力がないのだ。異性一人を得るためにはある種の狂気のような力強さが必要なのだろうか。54歳という私の年齢を、私自身が疲れさせていると思っているのか。しかし、みのさんとか、〇〇のドンファンとか、それって気力なのか、なんなのか。夜に飲み屋を梯子などする気などなれない。どういう違いがあるのか。そんなことはどうでも良かった。なんだか寂しい気がする。婚難救助隊も登録者数最高73名から71名に減ってしまった。けど71名今日時点で登録していることに感謝すべきだ。マッチングアプリも久しぶりに一つ増やそうかと思ったが、とりあえず断念した。格安SIMで電話とモバイルインターネットのコストダウンをしたところだ。もっと早くすべきだった。もっと早く格安SIMの電話にすべきだった。もっと早く告白すべきだった。でも出来なかった。異性への

<2021年11月6日>

25日締め切りではあるが、慣例通りに早く47号を提出した。これが私の性格である。なんでも早く終わらせたい。だが、人生は早く終わらせたくない。まだ実子も諦めきれない。そんな54歳。婚活は就学や就職よりも難しいと思う。

<11月17日>

某マッチングアプリを開いてショック。2カ月もメル友になってくれていた人が消えていた。

告白よりも電話会社を変更するほうが心理的に負担がない。

<12月29日>

昨日、マッチングアプリで東京都の港区という行ったら大変そうなイメージの人とマッチングできたtと思ったら、文章が送信できない。操作しているうちにいなくなってしまった。また持ち上げて落とされた感じだ。今年はあと2日。

<2022年1月1日>

元日だからというわけではないが、久しぶりに某マッチングアプリの写真を新しく変えたりした。

年齢はしかし変えられない……。

<1月6日>

関東でも南部のほうは少しの雪でも混乱するが、雪が少し積もった。明日の凍結が心配だ。今日は休日だが、Nさんが3日に最後の出勤ということで、偶然と言っているのか建物内で2度も遭遇した。2度目は階段である。「やめるんですか」とようやく口に出しているうちに階段を駆け上がってしまっていた。看護師長まで昇り詰めても辞めるのだが、結局ご縁は作れなかつた。と雪の中を思い出していた。マッチングアプリのほうも反応がない。格差とはこんな風にマスメディアその他が関心を持たないところにある。実存的な苦悩だからどうしようもない。と思いながらも、ユーチューバーとして結婚難問題への嘆きをアピールし

ていけば、総合格闘技がプロレス化しよう、シバターなら許されてしまう。そんなものだ。

<2月2日>

今回も私自身の進展は無かった。今回も面白い展開の文章を提供できなかったと思う。それだけ結婚できない状況に陥った人間は結婚できないのだ。それだけはこうして証明し続けていると思う。

社会では、北京冬季オリンピックが始まり、石原慎太郎氏が死去し、東京都のコロナ感染者数が2万人を超えたなど、様々なことが起きている。しかし私自身の婚活はどこまでも停滞している。

YouTubeの婚難救助隊のパフォーマンスの登録者数は74名。一体、どういう意図で登録してくださっているのかはわからない。しかし登録者数が増えてくれることが、結婚難時代を覆すための私のライフワークだと思いたい。